

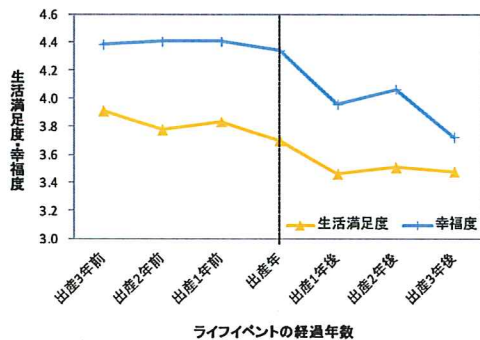
ワーク・ライフ・バランスと結婚・出産 ～パネル調査による幸福感変動分析～

慶應義塾大学 樋口美雄、明海大学 佐藤一磨、慶應義塾大学 萩原里紗

樋口美雄、佐藤一磨、萩原里紗は、札幌市立大学芸術の森キャンパスで開催された日本人口学会第65回大会において、「ワーク・ライフ・バランスと結婚・出産～パネル調査による幸福感変動分析～」の研究報告を行いました。本研究の分析結果からは、ワーク・ライフ・バランス（以後、WLB）の推進は夫の家事・育児参加を促し、夫婦の会話時間を延ばすことをつづじて、子どもを持つ人々の生活満足度や幸福度を高めていることが、実証的に明らかになりました。分析には、多数の個人の行動や幸福感を複数年にわたって追跡調査している家計経済研究所の『消費生活に関するパネル調査』や慶應義塾大学の『慶應義塾家計パネル調査』、『日本家計パネル調査』を用い、人々の幸福感が結婚や出産を契機にどのように変わるのか、そしてその変化にWLB関連の変数はどのように影響しているかを検証しました。

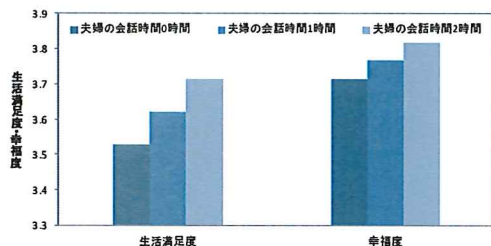
図表1は女性の平均生活満足度と平均幸福度が第一子出産の前後でどのように変わるのかを示しています。これを見ると、ドイツ等の分析結果と同様、第一子出産前は大きな変化が見られなかったものの、出産年を機に大きく低下しています。

図表1 第一子出産前後の女性の平均生活満足度と平均幸福度の推移



出典：(公財)家計経済研究所『消費生活に関するパネル調査』1993-2007を用いて筆者作成

図表2 子どものいる既婚女性の生活満足度・幸福度のシミュレーション
(夫婦の会話時間による違い)

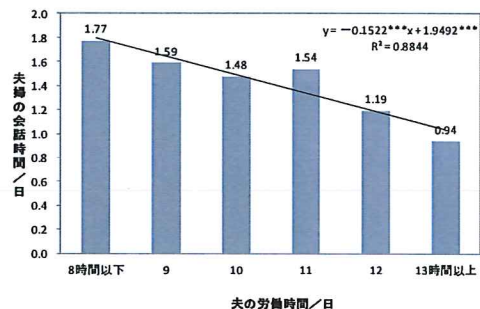


注：筆者が(公財)家計経済研究所『消費生活に関するパネル調査』1993、1994、1995、1997、1999、2001を用いて、固定効果推計法により推計した結果を用いてシミュレーションを行った結果に基づく。

この低下を防ぐためには、夫の家事・育児参加や夫婦の会話を促すことが効果的です。特に、図表2からわかるように、夫婦が会話時間を長くすることで、子どもを持っても妻の生活満足度や幸福度は下がりにません。図表3の平日の夫婦の平均会話時間と夫の平均労働時間の関係を見てわかるように、両者は右下がりの関係を示しています。すなわち夫の労働時間の長い夫婦の会話時間は短い傾向にあり、夫の労働時間の長いことが夫婦の会話時間を短くしている一因になっています。これに対し、WLB施策が重要な役割を担うと期待します。本研究では他にも、夫の勤務先が短時間勤務や半日・時間単位の休暇を認めるなどの柔軟な労働時間制度になっている世帯では、第二子の出産を有意に促す傾向のあることが確認されています。これは、WLB施策が夫の家庭にコミットする時間的余裕を作りだし、妻の家事・育児負担を軽減するだけでなく、夫婦間で共感を得ることに貢献しているためと推察します。なお、この共感に関して、夫婦の幸福感の相関関係を調べると、妻の幸福感が高まれば夫の幸福感も高まるという正の関係にあることもわかりました。

このように、女性だけでなく男性へもWLBを浸透させ、家庭で過ごす時間をより多く確保できるような環境を整備することで、夫婦の幸福感を高め、さらには結婚、出産を促すものと考えられます。

図表3 平日の夫婦の平均会話時間と夫の平均労働時間の関係



出典：(公財)家計経済研究所『消費生活に関するパネル調査』1993、1994、1995、1997、1999、2001を用いて筆者作成

注：係数の右上にある***は1%有意を示す。